



日本共産党平塚市議会議員団
電話 0463-23-1111 (内線 2375)
平塚市浅間町 9-1 平塚市議会控室
No.1072 2010年4月25日発行

日本共産党平塚市議会議員団

団長 渡辺 敏光

電話・fax 31-6431

w-toshi@agate.plala.or.jp

松本 敏子

電話・fax 59-4607

mail2@matsumoto-toshiko.jp

日本共産党議員団の法律相談

次回は 5月 8日 (土) です。
午後 1時から (要予約)

平和の尊さを どう継承するか 平和意識普及・啓発事業

平塚市は、昭和 60 年 12 月 20 日に「核兵器廃絶平和都市」を宣言し、それ以来、「アイ・ラブ・ピース」を合言葉に恒久平和を求めて、市民とともに平和の尊さ、大切さを訴え、様々な事業を実施してきています。

昨年 (H 21 年度) も、空襲体験をきく会、総合公園大池での市民平和の夕べ、広島派遣、平塚空襲の日には平塚駅前で、「もう一度平和であることを考えてください」と市民にポストカードを配布する市民キャンペーン、中央図書館では平和映画会や「平和の本」の配布、市役所ホールでの原爆と人間展、平和普及展など数多くの平和啓発事業が行われてきました。



毎年8月、総合公園中央大池では「I LOVE PEACE事業運営委員会」が運営して、「市民平和の夕べ」が行われ、多くの市民が参加して思い思いのメッセージを書いた灯ろうを流します。



平和のモニュメント
「マザーアース」の
まわりにも、「ピース」の灯が灯ります

今年 中止になった市民広島派遣

市民の方から

「あんな いい事業を、なんでなくすんですか? 多感な時期の子どもたちに、そういう機会を提供することはとてもいいことです。参加する人が少なかったのでしょうか。是非なくさないでほしいです。」
という意見をいただきました。

市民広島派遣事業

	申し込み数	定員枠
H17年度	48組	10組
H18年度	57組	10組
H19年度	40組	10組
H20年度	34組	10組
H21年度	36組	10組
H22年度	—	—

広島派遣がなくなった理由

昨年行われた「仕事の点検作業」で「事業内容等の見直し」を求められました。そうした中で広島派遣を「中止」としたものでした。

点検作業の会議録では

「フルコストの中で人件費が圧倒的であり、委託料にもう少しシフトしてもよいのではないか。市民との協働へシフトしていくように考えていく時期なのではないか。広島派遣の報告書など、それをどのように展開していくのか、もう少し底辺からの活動を活発化させ、しかも経費をかけない形の方法を考えるべきであろう。

参加者が非常に少ない。このまま続けてよいのか。一回ゼロ査定や事業の原点に戻って、市民の意見を聴くなどして見直してみるべきではないか。」

「市民広島派遣」は、平成4年に平塚市政60周年記念事業の一環として始まり、昨年度までに18回行われてきました。毎年、小学4年生から中学3年までの児童・生徒と、その親または祖父母を対象に募集し、上の表のように大変多くの市民が申し込んだのですが、抽選で1年に10組しかいけませんでした。

参加した子どもたちや家族は、8月6日の平和式典に出席し、平和のありがたさや、今の平和の影には多くの犠牲者がいたことなど、たくさんのことを感じ、その

感想文はホームページでも見ることができます、読む人に感動を与えています。

- ますます戦争体験者がいなくなる中で、子どもの時期に戦争の悲惨さを知って、回りの友達を通して伝えていくことは大変重要です。今年度中止となり、これからどういう事業をやっていくかは、5月に平和活動団体の代表者に声をかけ、協議していきたいと思います。平和を希求する市民と行政が、しっかり取り組んでいかなくてはいけない事業ではないでしょうか。

トランス脂肪酸は、身体に良くないって聞いたけど？

【トランス脂肪酸とは】

トランス脂肪酸は、LDLコレステロールの増加とHDLコレステロールの減少を促し、過剰摂取により冠動脈性心疾患の発症リスクを高めると報告されたことから、近年その過剰摂取が問題になっています。

マーガリンやショートニングなどの加工油脂およびこれらを原料とする食品、そして牛乳・乳製品、反すう動物の肉や精製植物油などに含まれます。

【日本人は大丈夫？】

日本人は米食であることから、食事で1日に100g近いマーガリンを使用するとは考えにくいですが、過剰摂取には気をつけましょう。パン食の場合、バターやジャム、ピーナッツクリームといったものに代えることで、トランス脂肪酸の摂取量を減らすことができます。

食品安全委員会が推計した日本人一人当た

(農林水産省/日本栄養士会資料参照)

1人あたりの一日に摂取するトランス脂肪酸量			
	調査年	摂取量(g/人/日)	一日当たりの総エネルギー摂取量に占める割合
米国	1994～1996年	5.8 ^{※1}	2.60%
EU	1995～1996年	男 1.2～6.7 ^{※1} 女 1.7～4.1	男 0.5～2.1% 女 0.8～1.9%
日本	1998年	1.56 ^{※2}	0.70%
	2006年	0.7 ^{※1} ～1.3 ^{※2}	0.3～0.6%

※1 積算によるトランス脂肪酸摂取量の算出

(各食品群のトランス脂肪酸量の分析結果と国レベルの大がかりな栄養調査結果から、国民1人当たりの一日に摂取するトランス脂肪酸量を算出。米国の場合には、20歳以上の大人的調査結果)

※2 食用加工油脂の生産量からのトランス脂肪酸摂取量の推計

りのトランス脂肪酸摂取量は、約0.7gといいます。これは米国やEU14か国と比べると少なく、WHOと国連食糧農業機関(FAO)の合同専門家会議が示した目標値「摂取エネルギー換算で1%未満」を下回っています。しかこの値には脂肪の多い菓子類や食品を多く摂るなど偏った食事をする人の個人差は考慮されていません。

【脂肪そのものの量に注意を】

厚生労働省は、近年日本人も「脂質からのエネルギー摂取30%以上の者の比率が次第に増えている」と指摘しています。

現在、様々な種類のトランス脂肪酸がヒトの健康にどのように影響するかについては、まだ明確ではありません。

そのため、マーガリン等に含まれるトランス脂肪酸だけに着目するのではなく、脂質の摂りすぎ、スナック菓子やクッキー、動物性肉など食事性コレステロールの多量摂

取も、結果的には心疾患やメタボリックシンドローム発症のリスクを高めることになるため、注意が必要です。



油脂だけでなく、脂の多い肉、スナック菓子やケーキにも要注意を。

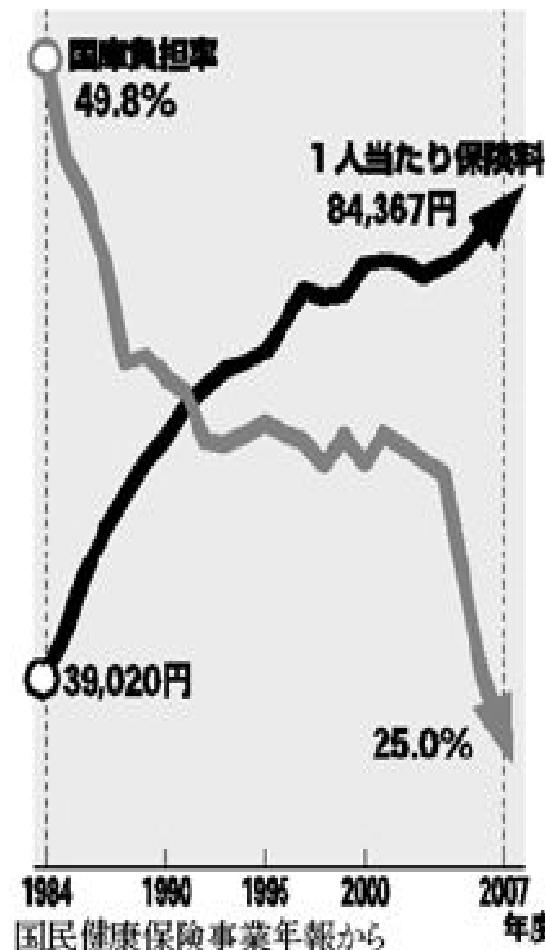
高すぎる～ 国民健康保険税

国民健康保険は、自営業者や農業・漁業従事者、また非正規雇用や無職の人たちが加入する医療保険です。平塚市の国保加入者は平成20年度で、人口26万人中7万700人、人口の約3割が加入しています。全国でみても国保加入世帯のうち、無職世帯は5.4%、「所得なし」世帯は27.4%と、低所得者及び高齢者が多いという構造的な問題を抱えています。1世帯当たりの所得額は平均166.9万円しかありません。(「平成19年度国民健康保険実態調査報告書」)

高い保険料の最大の原因は国庫負担金を約50%から25%に引き下げたことがあります。そして、払いたくても払えない若者を創つたのも、労働者派遣法の緩和

で多くの無職者を創り出した国に責任があります。命を守る立場にある国は、早急に国庫負担を引き上げ、保険料を下げるべきではないでしょうか。平塚市でも、国保税を払えない世帯は約8000世帯にも上り、厳しい中から工面して分納しています。

国保会計の国庫負担率と保険料



所得300万円

40代夫婦と子ども2人世帯の場合	
平塚市	372,900円
茅ヶ崎市	341,300円
海老名市	362,800円
綾瀬市	348,200円
逗子市	311,100円